

■「効果の見えるダム事業」

香川県 大川ダム堰堤改良事業

【堰堤改良事業 大川ダム管理設備工事】

香川県長尾土木事務所長 葛西 剛



● 大川ダムの概要

- ①目的 治水ダム
- ②経過 昭和35年着工、昭和39年3月竣工
- ③位置 さぬき市大川町田面
- ④河川名 二級河川 津田川水系 津田川
- ⑤諸元 重力式コンクリートダム
堤高:36.0m 堤体積:36,360m³
総貯水容量:760千m³
集水面積:4.0km²

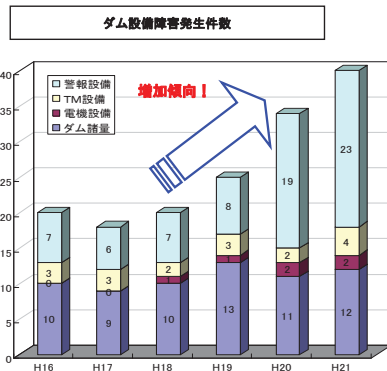
● 事業の必要性・効果

洪水時における放流操作に必要なダム管理用制御処理設備・テレメータ放流警報設備等については、毎年定期点検・部分更新等を実施し適正な管理に努めておりますが、近年、設備の老朽化により障害の発生件数が増加傾向にあります。また、部品の大半が製造中止(保守終息品)となっており、新たな部品の調達も困難になってきている状況です。

そのため、堰堤改良事業によりダム管理設備の改良・更新を行い、放流操作・情報伝達の確実性・信頼性を向上させ、ダム管理の適正化及び効率化を図ります。

● 事業の内容

- 全体事業費 580百万円
事業期間 平成23年度～平成25年度
工事概要 ダム管理用制御処理設備改良
テレメータ・放流警報設備改良
放流設備改良



平成16年台風23号による被害状況



(寒川地区 土石流)



(大川地区 土石流)



(大川地区 河川増水)

市民の意識向上による防災対策



香川県さぬき市長 大山茂樹

さぬき市は、香川県の東部に位置し、平成14年4月1日に、旧大川郡8町のうち5町が合併して誕生しました。本市は、南北に長い地形のため、沿岸部は高潮災害、山間部では大雨による土砂災害など、様々な災害に対応する必要があります。

平成16年の台風23号の来襲時には、中山間部において豪雨による土石流が発生し、5名の尊い命が奪われ、家屋の崩壊は27棟、床上床下浸水3,047棟など、市内全域で甚大な被害が発生しました。

洪水や土砂災害から人的被害を防止するためには、市民への迅速かつ適切な情報提供と、市民一人ひとりが、災害に対する意識と知識を持つことが必要だと考えています。さぬき市では、平成22年度に、「さぬき市洪水ハザードマップ」を作成し、全戸配布しています。この洪水ハザードマップは、香川県の指定河川になっている津田川と鴨田川流域において、県が示した浸水想定区域に加えて、既往災害も参考にした浸水の可能性のある区域を図示したものです。

また、市民の防災意識の向上を図ることを目的として、市広報紙に今年8月号から、「ぼうさいさぬき ひとくちメモ」として毎月1ページの連載を行っています。

情報伝達手段としては、これまで音声告知放送、ケーブルテレビ文字放送を通して、災害情報や避難情報等を市民に周知していましたが、今年度からは携帯メールによる情報の配信も行っています。必要な情報をより迅速に、幅広く提供することで、被害の最小化に役立てたいと考えています。

また、ハード面においても、国、県のご尽力により、社会資本整備総合交付金を活用した砂防事業に取り組んでいただいております。中山間地域や下流平野部への災害を防止するための砂防堰堤の整備を進めているところです。

近年、気候変動による短時間集中豪雨が増加しており、また、今年被害をもたらした台風12号や15号のように台風の大型化、低速度化による長時間にわたる大雨災害も今後増加してくるよう思われます。このような状況に備え、ソフト、ハード両面から防災対策を講じていくことで、住民の生命と安全を守っていけるよう、努力したいと考えています。